

「サイバーエージェント」新人採り過ぎで社長も認める“異常事態”

実業界

10

The Analytical
Magazine
for Economics

2012

毎月1日発売

昭和27年2月26日第三種郵便物認可
毎月1回1日発行 平成24年10月1日発行 第1004号

「電通」

海外広告会社買収で
早くも囁かれる“息切れ”

■「楽天」

英語公用語化完全移行で
噴出する不満と歪み

■「スズキ」

インド暴動で
いまだ癒えぬ後遺症

中間決算



二十世紀の医療の歴史は、疾患(病気)の原因探索や治療法の開発の歴史だ。だが、同じ病気でもその症状は十人十色。画一的な治療を施すだけでは、病気の治癒、患者さんの健康を取り戻すには限界がある。

そこで活躍するのが遺伝子情報だ。自分の身体の設計図であるゲノム(全遺伝子情報)を容易に活用できる時代が来たのだ。

そして世界中の医療現場で普及し始めているのがテーラーメイド医療。

「個別化医療」とも言われ、疾患だけでなく、疾患を抱える「患者さん」一人ひとりに合った治療を施していくという思想をベースに、日本では、医薬品の分野を中心にその具体的な取り組みが進んでいる。

では、日本の実際の医療現場ではどのようなゲノム検査が行われ、個別化医療サービスが提供されているのか、当月号で、その現状を簡単にお話し、次号では、当クリニックでの活用の一例として「遺伝子検査」についてお話をしたいと思います。



テーラーメイド医療に必須「遺伝子検査」

いく上で不可欠とされているのが遺伝子検査である。

「遺伝子」というと、一部には身構えてしまわれる方もいるかもしれないが、前述した臨床検査と変わるものではないが、得られる情報量はケタ違いとなる。

遺伝子検査には、口の粘膜をこすって調べられる体質遺伝子検査(SNIP検査)と、採血して遺伝子を解析する「疾病遺伝子発現検査」がある。

一般的に知られている遺伝子検査は「SNIP検査」で、これは例えば、親から引き継いだ体質、太りやすい、糖尿病にかかりやすい、高血圧になりやすい、がんになりやすい、逆に、病気のなりにくささもこの検査で分かる。

これにより、自分が遺伝子レベルでどのような疾患にかかりやすいのかを知ることによって、食事や生活習慣を見直し未然に発症を予防することができる。

疾病発現解析では、主にがんに関係する遺伝子の発現を調べる。遺伝子レベルで自分の身体の中で今、どの部位の

「がんのリスク」がどこまで高くなっているのかを調べ、がん細胞に成長しないよう、未病段階で消滅させるために超早期での予防行動が起せる。

罹った後のがんの「早期発見」ではなく、罹らないための「超早期予防」だ。

さらに最近、長寿遺伝子(サーチエイン遺伝子)が話題となっているが、これも血液検査で調べることが可能となる。この検査はまさに「ナイスエイジング」を実現するために大きく役立つ。

歯科での医薬品の分野においても、患者個々にあった鎮痛薬の投与量を、遺伝子検査で予測する試みも始まっている。(東京歯科大学、福田謙一准教授ら)今まさにテーラーメイド疼痛治療が受けられる時代が到来しているのだ。(次号へ)

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。



顎関節症

ドライマウス

舌痛症

ストレスは

見える!

すべては「噛みしめ」が原因だった

高野歯科クリニック
亀井 英志
Kamei Hideshi

気がつくとも歯を食いしばっている、…。心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書『すべては「噛みしめ」が原因だった』をお読みいただきたい。*未病、の原因をまとめた良書です。